不動産テック 最新サービス

ニーズの高い非対面・非接触や業務支援系サービス。今後の不動産テックをリードする分野になりそうだ。そのなかでも「導入のしやすさ」をテーマに2社ピックアップする。

電縁

非接触・非対面で受付

AIで顔認証、スマホのみで決済まで

多言語に対応 自動で本人認証

ホテルのチェックインやイベントの参加者受付では、備付けの筆記用具で氏名などの必要事項を記入する方式がよく見られる光景であったが、感染拡大対策の徹底が叫ばれる現在、それらの方式が大きく変わるかもしれない。モノに触れることなく、人に近づくことなく受付手続きできれば、感染の不安もない。

「非接触・非対面」のニューノーマル仕様チェックインシステム「manaKEY（マネキー）」は、本人認証やスマートロック連携も可能、応用範囲の広い多機能タブレットだ。

電縁（東京都信州区）が本年5月にサービススタートしたホテル・民泊向けの「manaKEY」は、パートナー企業のINDETAIL（社長市山央区）が約1年間かけ開発し、2020年初めより実証実験を始めたもの。多言語対応しており、本人認証も自動でできる。当初は外国人インバウンドへのチェックイン業務の無人化・省エネ化を狙ったシステムだったが、新型コロナウイルスの影響で、「非接触・非対面」機能を求める大手ホテルなどからの問い合わせが急増。現在、大規模ホテル向け、かつ観光地を中心に各自治体の宿泊条例に合わせた改善を急いでいる。

パートナー企業 INDETAIL 吉田 健一氏

セールスマネージャー 篠 康文氏

初期費用安く タブレット1台

チェックインの流れはこうだ。まず各宿泊施設のオンラインサイトで予約をすると予約コード、ロールツールにより、「manaKEY」へデータが送られ、予約者ごとに予約ページが作成される。いわゆる「マイページ」のような機能だ。ここにチェックインが事前にパスポート写真などの必要なデータを入力するとQRコードが発行される。これで事前準備は完了。当日、チェックインカウンターに設置されたタブレット「manaKEY」の端末にQRコードをかざし、予約ページを呼び出す。「manaKEY」搭載のAIにより顔写真と同一人物か、AIが判断し本人確認ができる。

この間、「人物チェック機能が一番難しかったところですね。実証実験では90%以上の整合率ですし、自治体の求めるレベルはクリアしています」と語るのは開発イノベーションオフィス室長・吉田健一氏。実際に部屋を開ける鍵の手続は面倒により省う。manaKEY端末によるチェックイン手続き後、有人カウンターで鍵の実物を受け取るホテルもある。スマートロックや決済端末と連携すれば、スマホのみでチェックインから入室、支払いまで可能だ。

セールスマネージャー・篠康文氏は、「ホテルに限らず、将来的には様々な受付に応用可能です。初期費用も安く、基本的にタブレット写真などの必要なデータがあれば利用できます。難しいシステムでカスタマイズがいろいろできる部分になっています。最初から多言語対応しており、スマホのみで、チェックインに必要な入力は全部自動でできます。現在、簡易宿所数が増加していますが、このシステムは非常にマッチしているのではないでしょうか」と語る。

AIが標準仕様 カスタマイズ可能

宿泊施設のみならず、受付手続きが必要な場面は多々ある。ビルのエントランスやイベント、コワーキングプレイスなどのフレキシブルスペースなど、「非接触・非対面」は人の集まるあらゆる場所で今後は必須になってくる。運営側は、今までとは違う「受付カウンター付近」を整える必要がある。設備投資に負担になる向きも多いが、アフターコロナという新しい時代への転換期でもある。受付という単純なプロセスではあるが、本来と同様の方式ではなく、「非接触・非対面」という新ノーマルに合わせる必要もある。

「タブレット1台というが大きな利点です。完全後払制で子ユックイン件数だけ課金され、件数が増えると1件当たりの単価が安くなります。AIが標準機能で、QR、スマートロック、決済端末との連携、さらにカスタマイズ可能ですから連携システムをどんどん増やしていけます。機能の豊富さ、導入しやすさで他社との差別化を図りたい」（篠氏）

◀導入のしやすさも武器に

コロナ禍では様々な価値観が変わり、当初とは違うマーケットを対象にする製品・サービスも少なくない。予想外の発展をする分野も今後多々出てくるだろう。ニューノーマル仕様を追加し、利用可能性が広がれば、社会全体に貢献することにもつながる。世界的に景気の冷え込みが予想されるなか、マーケットの拡大を目指すサービスには大いに期待したい。